

令和8年第1回定例会

市長施政方針に対する代表質問通告一覧表

会派名(氏名)	番号	質 問 事 項	質 問 の 具 体 的 な 内 容
1. 公明党 (中間 建二)	1	市長の政治姿勢と市政運営の方針について	<p>① 市長は「80年周期説」を引用し、パラダイムシフトへの対応を強調されたが、この歴史観は令和8年度の予算編成や政策決定において、具体的にどのような「変革」として反映されているのか。従来の延長線上ではない、新たな時代の息吹をどのように予算に込めたのか伺う。</p> <p>② 「今のありがとうだけでなく、未来のありがとうのために」との理念のもと、市長がこの3年間で最も手応えを感じている「未来への種まき(成果)」とは何か。現時点で達成しきれていない「残された課題」をどう認識し、最終年度でどう道筋をつけようとしているのか伺う。</p> <p>③ 未来から逆算する「バックキャスト」の考えに基づき、10年後、20年後、30年後の東大和市における人口ビジョン、財政規模と都市の「あるべき姿」をどのように描いているのか。その長期ビジョンに対し、令和8年度の取組はどのような通過点として位置付けられるかを伺う。</p> <p>④ 公共施設の更新には「毎年約7億円の基金積立」が不可欠とされているが、扶助費が増大する中、市民サービスの質を低下させることなく、いかにしてこの巨額の財源を生み出していくのか。事務事業のスクラップ・アンド・ビルドを含めた、実現可能な財政計画の裏付けについて伺う。</p> <p>⑤ 学校を核とした複合施設「みんなの学校」構想の先進性やメリットを市民にどう説明し、納得と合意を形成していくのか。トップダウンではなく、丁寧な対話のプロセスが不可欠と考えるが、市長の覚悟を伺う。あわせて、市役所周辺における健康・福祉・子育て支援拠点の整備を優先的に進めるべきと考えるが、その認識とスケジュールについて伺う。</p> <p>⑥ 子どもの医療費の無償化や給食費の無償化は、所得制限を排した「弱者を生まない社会」を目指すベーシックサービス(BS)の具現化と言える。公共施設再配置に伴う財政負担も、次世代のための「痛みの分かち合い」と捉えられるが、BSの概念を今後の市政運営の柱として位置付ける考えはあるか伺う。</p> <p>⑦ 「みんなの学校」のコンセプトを進めるためには、ハード面の整備のみならず教育内容の革新にも取り組むべきと考える。GIGA端末を活用して一人ひとりの学習進度に合わせた個別最適化された学びの深化、不登校特例校や校内フリースタールの充実、狭山丘陵をフィールドとしたSTEM教育、英語イマージョン教育、部活動へのプロの専門指導員を配置するなど、東大和市独自の魅力ある特徴的な教育内容の充実や質的転換を図っていく考えはあるか伺う。</p>

<p>(公明党)</p>	<p>2</p>	<p>重要施策について</p>	<p>⑧ 今後、さらに「行かない市役所」「書かない窓口」を徹底する中で、市民の利便性向上に加え、内部事務の効率化やコスト削減効果をどの程度見込んでいるのか。また、プッシュ型行政サービスを拡充し、市民が申請する前に「個別の状況に応じた利用可能な制度」を通知する仕組みの構築ができないか伺う。</p> <p>⑨ 先般の物価高騰対策では、事務経費を極限まで削減して財源を生み出し1人当たり7,000円相当の給付を多摩26市最速で実現でき、市民や他自治体からも驚嘆の声が上がっている。こうした事例を含め、部局統合や人事評価刷新の成果は、具体的な「業務効率化の数値」や「市民サービスの向上」に表れているのか。客観的な評価を伺う。</p> <p>⑩ 職員が失敗を恐れず挑戦する「ゲームチェンジャー」となり、前例踏襲主義を打破するためには、権限委譲と挑戦できる土壌づくり、心理的安全性の確保が不可欠だと考える。縦割り是正やモチベーション向上のための具体的な人事戦略、行政サービスの市民満足度に加え、職員自身の「働きがい（職員満足度）」を指標化することがエンパワーメント構築につながると考えるが、見解を伺う。</p> <p>① 子ども・子育て憲章の普及啓発に加えて、最も重要な「子どもの権利」が実質的に守られているかを検証する仕組みをどのように構築していくのか。子ども自身が意見を表明し、市政や学校運営に参加する権利（アドボカシー）をどのように保障していくのか伺う。</p> <p>② 令和8年度から国による給食費負担軽減交付金の創設が予定されているが、市負担分は解消される見込みはあるのか。また、ベーシックサービスの観点から、私立小・中学校に通う児童・生徒への公平な支援を検討するべきではないか。併せて、無償化における公会計化のメリットをどのように捉えているのか伺う。</p> <p>③ 学校再配置計画が長期間に及ぶ中、現在の学習環境をおろそかにしてはならないと考える。特に学校トイレの洋式化やドライ化、水回りの修繕は、衛生面からも避難所機能の面からも喫緊の課題であり、再配置を待たずに可能な限り先行して実施すべきと考えるが、方針を伺う。</p> <p>④ 令和9年度の自閉症・情緒障害特別支援学級開設に向け、対象児童の推計と、高い専門性を持つ教員の確保・育成にどう取り組むのか。遠距離通学となる児童への配慮として、スクールバスの導入や移動支援の拡充を検討すべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>⑤ 新たに開始する補聴器やウィッグ等の購入助成における所得制限の有無や助成額の根拠について、併せて支援が必要な方に情報が確実に届くよう、医療機関や福祉窓口と連携した周知の工夫について伺う。</p>
--------------	----------	-----------------	--

<p>(公明党)</p>	<p>3</p>	<p>今任期の総括と市長の責任について</p>	<p>⑥ 生涯学習とスポーツ振興に関する指針策定は、どのような内容を想定されているのか。市内のプロスポーツチームとの連携は、シビックプライドの醸成や経済効果に繋がると考えるが、観光事業や健康長寿事業と有機的に連携させ、単なるイベント開催に留まらない、持続的な地域活性化と健康づくり施策への展開をどう描いているのか伺う。</p> <p>⑦ 能登半島地震の教訓を踏まえ、通信途絶や停電を想定したアナログな対応訓練、および外部からの支援を受け入れる「受援体制」の整備状況について伺う。一方で、避難所における電源確保や、安否確認等のDX活用をどう進めるのか、ハイブリッドな防災対策の強化の考えについて伺う。</p> <p>⑧ 東大和市駅前再開発について「構想」策定のみならず、地権者との合意形成や事業協力者の選定など、令和8年度中に目に見える動きを示せるのか。また、一体的な策定を進める「立地適正化計画」と「地域公共交通計画」において、公共施設をつなげる交通網の整備や高齢化に対応したデマンド交通の導入を検討していかれるのか伺う。</p> <p>⑨ 多摩モノレールの延伸を見据えた上北台駅周辺の地区計画は、将来的な沿線開発や人口流入の受け皿として十分なポテンシャルを持たせる内容となっているか。また、上北台駅を狭山丘陵の「玄関口」として位置づけ、市立狭山緑地周辺の魅力的な環境整備と交流人口の増加をどのように図っていかれるのか。そのための東京都や近隣自治体との連携強化について伺う。</p> <p>⑩ 市税等の収納率で都内1位を目指すことは、市民負担の公平性と適正な財源確保に加え、国税の負担軽減にも寄与することになるが、そのための具体策及び財政効果をどのように分析されているのか。また、生活困窮者に対する債務整理や生活支援への福祉的なアプローチをどう両立させるのか伺う。</p> <p>⑪ 会派としてインクルーシブ公園の整備を求めてきたが、これまでどのような検討を行ってきたのか。市役所の中庭にインクルーシブ遊具を設置することは、市役所を訪れる方々の心のバリアフリー効果も期待できるが、この場所を選定した理由と市の魅力向上にどのように繋げていくのか伺う。</p> <p>① 施政方針の端々に「未来への道筋をつける」という強い決意と意志を感じるが、この「パラダイムシフトの転換点」において、市長は残り1年の任期をいかに全うし、その先の東大和市をどう導こうと考えているのか。40年もの長期間にわたる公共施設の再配置計画策定に着手する中で、市長としての責任をどこまで果たしていこうと考えておられるのか、現時点での心境を伺う。</p>
--------------	----------	-------------------------	--

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
2. 立憲国民クラブ (大后 治雄)	1	重要施策4点について	<p>① 「子ども・子育て支援施策の推進」について</p> <p>ア 喜多方市での農業宿泊体験事業の詳細と効果、課題を伺う。</p> <p>イ 東大和市子ども・子育て憲章の啓発に関し、今までの取組内容と課題、新たに給食用食器にイラストを掲載することで期待される効果を伺う。</p> <p>ウ 中学校の「オンライン英会話学習」や市内全小学校5年生を対象とした「東京グローバルゲートウェイ グリーンスプリングス」での体験学習の効果と今後の課題を伺う。</p> <p>② 「健康・高齢者施策の推進」について</p> <p>ア 胃がん検診における内視鏡検査に関し、定員を上回る申し込みに対し、対象人数を増やすなどの対応が図られるのか伺う。</p> <p>イ 地域連携ネットワークの中核となる中核機関設置等事業の詳細を伺う。</p> <p>③ 「都市の価値を高める施策の推進」について</p> <p>ア 今まで実施されてきた東大和市総合防災訓練の検証と評価を伺う。また、見直される内容の詳細と今後の方向性を伺う。</p> <p>イ AIごみナビシステムの詳細と効果を伺う。</p> <p>ウ 豊かな自然を有する狭山丘陵地域全体の魅力の向上を図るための周辺自治体と連携した取組に関し、市の認識を伺う。</p> <p>④ 「持続可能な行財政運営等の推進」について</p> <p>ア 令和8年度における「東大和市DXプラン」の具体的な取組内容と効果、今後の課題を伺う。</p> <p>イ AI相談支援システムの詳細と効果を伺う。</p>
	2	市政の状況について	<p>① 令和8年度市長施政方針の中で、「市長に就任した当初と比べて、まち全体が少しずつ明るい空気になってきていると市民の皆様からお声がけいただき、私自身もその変化を実感しております。」と述べられた。そこで、まち全体が少しずつ明るい空気になってきている、その変化をどのように実感されているのか伺う。</p>

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
3. 自由民主党 新政会 (森田 博之)	1	総括として	① 市長就任以来の市政運営について ア 施政方針では、市長は「大きな転換点を迎えている」と述べられ、公共施設再配置、DX推進、職員力・組織力の向上を重要な柱として、市政運営を進める決意を示されました。任期終盤を迎える中で、これまでの取組を振り返り、市長は自身の市政運営をどのように評価しているのか伺います。
	2	市政の状況について	① 公共施設再配置について ア 施政方針では、令和8年度を公共施設再配置計画の「1丁目1番地」と位置付け、公共施設の半数が築40年以上を経過している現状が示されました。再配置計画策定に向け、令和8年度はどのような行程と到達目標を設定しているのか伺います。 イ 公共施設再配置を進めるため、毎年約7億円の基金積立が必要と述べられています。基金積立の必要性について、市民にどのように説明し、理解を得ていくのか伺います。 ② DX推進について ア 「行かない市役所」の実現に向け、DX推進を進めると述べられました。令和8年度において、DX推進で重点を置く分野と、目指す成果について伺います。 ③ 職員力・組織力の向上について ア 施政方針では、組織統合や部の連携強化により、市民サービスとして還元できる体制を整えたと述べられています。令和8年度において、組織力の向上をどのように市民サービスの向上につなげていくのか伺います。
	3	重要施策について	① 子ども・子育て支援施策について ア 大和南保育園跡地における子育てひろばの施設拡充整備を進め、地域子育て支援拠点として機能強化を図ると述べられました。この整備により、どのような効果を目指していくのか伺います。 イ 一時預かり事業及び乳児等通園支援事業を開始するとされています。安定的に運用するための人員確保や体制整備について伺います。 ② 学校教育について ア 外国語教育の充実として、中学生のオンライン英会話学習や、小学生の英会話学習を継続すると述べられました。これまでの取組による評価と、今後の方針について伺います。 イ 小学校における自閉症・情緒障害特別支援学級を令和9年度に開設するため準備を進めると述べられました。令和8年度において、具体的にどのような準備を進めるのか伺います。

<p>(自由民主党 新政会)</p>	<p>4</p>	<p>結びとして</p>	<p>③ 高齢者福祉について ア 成年後見制度に関する中核機関設置等事業を実施すると述べられました。この事業の目的と、支援体制をどのように強化していくのか伺います。</p> <p>④ 生涯学習及びスポーツ、レクリエーションについて ア スポーツと観光事業等の連携による地域活性化や、健康長寿事業との連携などを展開すると述べられました。令和8年度において、どのような取組を進めていくのか伺います。</p> <p>⑤ 都市づくりについて ア 東大和市駅周辺について「まちづくり構想」を策定し、具体的な事業手法の検討を進めるとされています。 また、上北台駅周辺についても地区計画等の決定に向けた手続きを進めるとされています。 そこで、東大和市駅周辺及び上北台駅周辺のまちづくりについて、市長が描く将来像と重点施策について伺います。</p> <p>⑥ 持続可能な行財政運営について ア 市税及び国民健康保険税において、いずれも過去最高の収納率を達成されました。また、令和8年度は収納率1位を目指すと述べられました。収納率1位を目指すに当たり、どのような具体策を進めていくのか伺います。</p> <p>⑦ 産業振興について ア 令和7年度施政方針では産業振興について述べられておりましたが、令和8年度施政方針では記載が見当たりませんでした。市内創業の促進、企業誘致、スタートアップ企業支援について、令和8年度はどのようにお考えなのか伺います。</p> <p>① 市長の思い描く理想の「当市の未来」について ア 施政方針では、課題を自分事として捉え、学び、挑戦を積み重ねることの重要性が述べられました。そして、その先のステップとして、市民・企業・行政が連携し、協働によるオープンイノベーションの実現を目指すとのこととお考えであると受け止めております。そこで最後に、市長が描く東大和市の将来像について、市民と共有していくためにも、市長のご所見を伺います。</p>
------------------------	----------	--------------	--

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
4. やまとみどり (床鍋 義博)	1	令和8年度の重要施策について	<p>① 子育て環境について、令和7年に廃止された「かるがもひろば」と「かるがも一時保育」について、保護者の方から復活を求める声が強いです。子育て世帯にとって使い勝手の良い施策を充実させることこそが必要とされていると考えるが、市長の見解は</p> <p>② 特別支援教育について、自閉症・情緒障害特別支援学級の開設については、私の一般質問でも何度か取り上げてきましたが、当市について開設されることになったことは、高く評価します。ただ、1か所の開設であっては、通学に困難を生じることから、全ての学校に自閉症・情緒障害特別支援学級が開設されるまでの間、児童・生徒の送迎に関する必要かつ十分な施策が必要と考えますが、市長の見解は</p> <p>③ 高齢者福祉についてですが、成年後見制度を推進するため新たに中核機関設置等事業を開始するとされております。この項目も過去に行政書士の活用や市民後見人制度を紹介し、関係する機関や人の絶対数を増やすことと、本制度の周知を指摘していましたが今回の施策に活かされているかどうか市長の見解をお聞きします。</p> <p>④ 生涯学習及びスポーツ、レクリエーションについて、ここ最近プロのアイスホッケーチームや、サッカーチームなどが当市を拠点として活動を始めました。これをチャンスとして、市民全体がサポートすると同時に、子供たちへの指導なども含めた交流を進めるべきであると考えますが、市長の見解は</p> <p>⑤ 防災について、以前提案した防災担当の自衛官の採用について市長の見解を伺います。</p> <p>⑥ 都市づくりについては、市民対象の意見交換会へ、何度か参加しました。その中で、東大和市駅周辺の建蔽率や容積率の大幅な緩和をすることが発展の要素である旨の意見が出ておりましたが、市長の見解は</p>
	2	施政方針全体について	<p>① 市長が唱える「目指すべき未来」とは、具体的にどのようなものであり、それをどのように実現していくのか。</p> <p>② DXの推進について、デジタル技術をうまく使いこなせない方への指導、いわゆるデジタルデバインド対応について、体験会が予定されているとのことですが、そもそも体験会に来られない市民、関心がない市民こそ、このデジタルデバインドが発生する可能性が高いのではないかと考えるが、その対策について市長の見解は</p> <p>③ 職員力の向上のために、一番必要なことは、失敗を恐れずに挑戦する環境を整えることが大切であると考えますが、市長の見解は</p>

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
5. 共につくる 東大和 (上林真佐恵)	1	市長の基本姿勢について	<p>① 市長は、「80年周期説」との歴史観をひいて、2026年は大きな構造転換が本格的に始まる年としました。さらに市長は、新たな時代に対峙し、課題を先送りせずに着実な解決を図ると述べました。問題は中身です。どのような構造転換に、どのように対応しようとしているのか、市長の見解を伺います。</p> <p>② 国連の世界人口推計2024年版では、2020年を1としたときの2100年の人口について、ヨーロッパと北アメリカが0.95に対して日本は0.61となっています。とりわけ日本において深刻な少子化・人口減少の原因が、結婚・出産・育児さえままならないワーキングプアと呼ばれる非正規雇用労働・低賃金の拡大と、国際的に見ても貧弱な社会保障給付、教育に対する公費負担の低さにあることは明らかです。</p> <p>人口減少を口実に社会保障の一層の削減を図るのではなく、史上空前の利益を上げている大企業、資産を飛躍的に増やしている富裕層に対する優遇税制・減税を改めることで財源をつくり、格差の縮小、貧困の根絶に取り組むことこそ求められています。</p> <p>世界でも日本でも、あり余る富の偏在が社会の健全な発展を阻害している、この転換が切実に求められているという認識を市政運営の大きな柱に据えていただきたいと考えますが、見解を伺います。</p>
	2	物価高騰対策と市民の暮らしを守る市政運営について	<p>① 物価高騰の波が止まらず、食品や光熱費をはじめ、あらゆるものが値上げされています。市として物価高騰対策を強力に進める必要があると考えますが、見解を伺います。</p> <p>② 会派として求めて来た18歳までの医療費完全無償化、学校給食費無償化に続き、補聴器購入補助制度の創設に踏み切ったことを高く評価します。「住民の福祉の増進を図る」という地方自治の本旨に立って、国民健康保険税の値上げは中止し、下水道料金・家庭用ごみ袋とともに値下げを行う等、さらなる市民負担の軽減を図るべきと考えますが、見解を伺います。</p>
	3	公共施設再配置計画と市民に開かれた市政運営について	<p>① 「公共施設再配置計画(素案)」が公表されました。老朽化した公共施設の更新費用と面積の縮減先にありきで、小・中学校を15校から10校に減らし、周辺の公共施設を全て集約すること、PFI等の民間活力導入が柱です。学校を減らすのではなく、教員を抜本的に増員し、20人程度の少人数学級で目の行き届く教育環境を整備することこそ必要です。統廃合によって学校と教員を減らし続けてきた国の路線に従うのではなく、子どもの最善の利益を保障する立場で学校施設の更新を行うべきです。近くの公民館などが遠くの学校に集約されて通えなくなれば、その方にとってはなくなると同じこととなります。市長の見解を伺います。</p>

<p>(共につくる 東大和)</p>			<p>② 学校や図書館、公民館、市民センター、集会所などの公共施設は市民の財産です。まちの姿を大きく変える計画は、幅広い市民との協働で進めるべきと考えますが、市は、素案に対して市民が自由に参加できる意見交換会等も設けず、従来どおりのパブリックコメントを行っただけでした。また、先日行われた第1回懇談会では、傍聴定員をわずか5人に制限し告知したものでした。開かれた市政運営とも逆行するものだと考えますが、見解を伺います。</p>
	4	子どもの権利保障について	<p>① 小・中・高生のいじめや自殺が過去最多を更新し、不登校児童・生徒も増加が止まりません。教職員の長時間労働もいまだなくなり、教員不足の影響は当市にも及んでいます。教職員の大幅増と負担軽減を進めるとともに、さらなる少人数学級の推進が急務だと考えますが、見解を伺います。</p> <p>② こども誰でも通園制度が本格実施されますが、乳幼児の安全や発達が保障されているとは言い難い不十分な基準と制度設計のもとで、保育施設へのさらなる負担増が強く懸念されます。市として基準を上乗せし、実施主体としての責任を果たすこと、国に対し認可保育園と一時保育の抜本的な拡充を求めるべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>③ 市の「子ども・子育て憲章」は、子どもに「理想の姿」を押しつける行動規範であり、子どもの権利とは逆行するものです。給食食器へのイラスト使用は中止し、子どもの権利条例を制定することを求めます。市長の見解を伺います。</p>
	5	気候危機対策、地球温暖化対策について	<p>① 気候危機の解決、気候正義の実現に、地球と人類の生存がかかっています。市としても、気候市民会議の設置、太陽光発電設置補助制度の創設、市民向けの省エネ・再エネ相談窓口の設置などを求めますが、見解を伺います。</p> <p>② 東日本大震災、能登半島地震の痛切な教訓を踏まえ、市民の命と暮らしを守る立場から原発ゼロへ進むべきと考えますが、見解を伺います。</p>
	6	外国人への差別を許さない多文化共生社会の実現について	<p>① 国内で外国人に対する差別やヘイト、排外主義が急速に広がっています。影響力のある政治家から差別や排外主義をあおる言葉が公然と発せられることで、人々の中に排除や差別をしてもいいのだという風潮が広がることは、日本で暮らし、働き、学んでいる外国人の命の危険に直結します。自治体など公共団体が、差別を決して許さないという声を上げ続けるとともに、多文化共生社会をつくるための取組を強く進める必要があると考えますが、見解を伺います。</p>
	7	職員の労働環境の改善について	<p>① 職員の地域手当が2026年度16%に引き上げられることになりました。人事院勧告に従えば、2025年度は14%に引き上げるべきところ、12%に据え置かれました。2025年度を遡って14%に引き上げるよう求めますが、見解</p>

<p>(共につくる 東大和)</p>	<p>8</p>	<p>憲法改正・核兵器廃絶・平和を守る取組について</p>	<p>を伺います。</p> <p>② メンタルを理由とする長期休職者数が、2014年度の5人から、2024年度は20人となり、10年で4倍化しました。その要因をどのように捉えて、労働環境の整備に具体的にどう取り組まれるのか、伺います。</p> <p>③ 男女間の賃金格差について、市長は「男女間においてそれぞれ制度的な差は生じておらず、適正に対応して」との答弁を繰り返していますが、市の発表によれば、市の職員の男女の賃金格差は、2023年度は70.5%、2024年度61.7%、2025年度61.2%と、2年間で9.3ポイントも拡大しています。実質的な格差の是正が求められていると考えますが、見解を伺います。</p> <p>① 高市首相は、憲法改正に強い意欲を示しています。とりわけ憲法9条は、国家の最も強力な権力である武力行使を縛ることで、米国の戦争に日本が参戦する危険から国民を守ってきました。憲法への自衛隊明記は、海外での無制限の武力行使に道を開き、日本を「戦争できる国」につくり変えるものです。平和首長会議に加盟する東大和市長として、見解を伺います。</p> <p>② 核兵器禁止条約が発効5年を迎え平和首長会議は、全ての国が条約に署名・批准するよう要請する共同アピールを発表しました。東大和市平和都市宣言の理念に基づき、政府に対し条約への署名・批准を求めるべきだと考えますが、見解を伺います。</p>
------------------------	----------	-------------------------------	---

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
6. 自由民主党 (蜂須賀千雅)	1	市長任期最終年の取組について	① 市政に関する強い決意と意思についてお聞かせください。市民一人ひとりが日々の暮らしの中で幸福を実感でき市の変革を感じることでできる未来への取組について伺います。
	2	職員力について	① 市長就任以来、職員力の向上に向けた様々な取組については市長自身が先頭に立ち、先日の職員採用合同説明会の会場に出向き、自ら東大和市で働くことの魅力を直接お伝えするなど、これまでのトップではなかったであろうその行動力についても高く評価をしている。その中で定年退職者を除く通常退職者が年に20名前後と正規職員の約5%に当たる数字についての原因をどのように捉え、今後の対策についてのお考えは
	3	重要施策について	① 健康・高齢者施策の推進について ア 令和7年度からの胃がん内視鏡検診への取組、令和8年度の継続実施について高く評価する。その他のがん検診でも通常の検診に合わせてエコー検査をプラスで行うとより早期発見につながるという推奨される検診もあるが、市民が積極的に受診へ向かうことに繋がる今後の新たな施策の検討状況は イ スポーツ・観光事業と地域活性化やフレイル予防対策含む健康長寿事業との連携の詳細は ② 都市の価値を高める施策の推進について ア 防災について、地域防災計画の市民への徹底した周知方法と、さらなる防災力の推進のために、次の段階として地域が自主的に「地区防災計画」への取組を積極的に行うことにつながる市からの地域へのサポートの取組をどのように考えるか。 イ 「立地適正化計画」「地域公共交通計画」の一体的な策定について福祉事業者等の空き時間における空き車両の活用などの展開を今後どのように考えるのか。

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
7. 無所属 (関 綾子)	1	職員力が向上し、組織力が強化されていることの効果について	① 市民が感じられる良い効果としてはどのようなことがあるか。また、現状の組織体制について、職員配置は業務量と合っているのか、職員に過度な負担がかかる状況となっていないか、その認識と職員の心身の不調や離職の状況について、所見を伺う。
	2	子どもの権利に関する取組について	① 「子どもたち自身が自らの持つ権利について」知るための周知を進めることに関連する、子どもの権利を守るための体制づくりについて伺う。具体的には、オンブズパーソンなどの権利救済制度や、意見聴取、それが聞き入れられ実現する仕組みといったことが考えられるが、市としてどのような具体的な制度や施策を進めるのか。
	3	地域子育て支援拠点の機能強化について	① 大和南保育園跡地に整備される施設は、東大和市が安心して子育てができる環境となるための拠点の施設とする必要がある。子ども家庭センターと連携した施設とし、必要な人を相談や支援につなげる機能や、市として子育ての実態に触れ、現状を把握していくことが重要である。そういった、子ども家庭支援センター「かるがも」が負っていた役割を担うような施設となるのか伺う。
	4	からぼり緑道公園について	① 散策環境の充実に加え、遊んだり過ごす、という公園としての用途でも利用できる整備が必要だと考えるが、認識を伺う。また、空堀川で途切れる場所に橋を設置したり、ベンチやトイレを設置するなどの散策環境の充実に向け、どのような検討がされているのか伺う。
	5	本庁舎中庭の再整備について	① 本庁舎中庭は立派なけやきが配置され、ベンチを利用したり、子どもたちが遊んだりなど、市民が憩う姿がある。再整備は今の良さを残しつつ、さらに利用しやすいものとするのが求められるが、現状の中庭からどのように変える考えなのか。また、再整備に際しては、様々な立場の人の意見を聞く必要があると考える。とりわけインクルーシブ遊具を設置することについては、障害児やその保護者の声をどのように取り入れるのか。中庭再整備に向けた懇談会や意見交換会を行うべきと考えるがどうか。
8. 無所属 (高峰 章)	1	まち全体の空気について	① まち全体の空気が、少しずつ明るい空気変わってきていることを実感されているとのことだが、どういった点で感じになるのか伺う。 ② まち全体の空気が、少しずつ明るい空気変わってきていることに対して、何が影響していると思われるか伺う。
	2	うまかんべえ～祭について	① 令和8年度うまかんべえ～祭は中止となった。当市の大きな行事である、うまかんべえ～祭に代わる行事が示されていない。地域振興策として重要な行事と考えるが、この検討が示されていないのはなぜか伺う。

(高峰 章)	3	公共施設再配置計画について	<p>① 毎年7億円の基金の積立てが必要とのことだが、義務教育施設の再配置計画であることから、これまで申し上げてきたとおり、国・都補助金の要望も踏まえ、目標積立額をいくりに設定しているのか伺う。</p> <p>② あらためて7億円の算定根拠について伺う。</p>
	4	旧日立航空機株式会社変電所の東京都指定文化財登録について	<p>① 旧日立航空機株式会社変電所の東京都指定文化財登録についての考え方、方針について触れられてない。この点の認識について伺う。</p>
9. 無所属 (大川 元)	1	公共施設の再配置計画について	<p>① 現在の状況について</p> <p>② 物価上昇や災害が発生するかもしれない社会的要因について</p> <p>③ 動かざる山とは何かについて</p> <p>④ 市民からの反響と今後の方向性について</p>